

12	小国 152
二葉	

こくごのほん

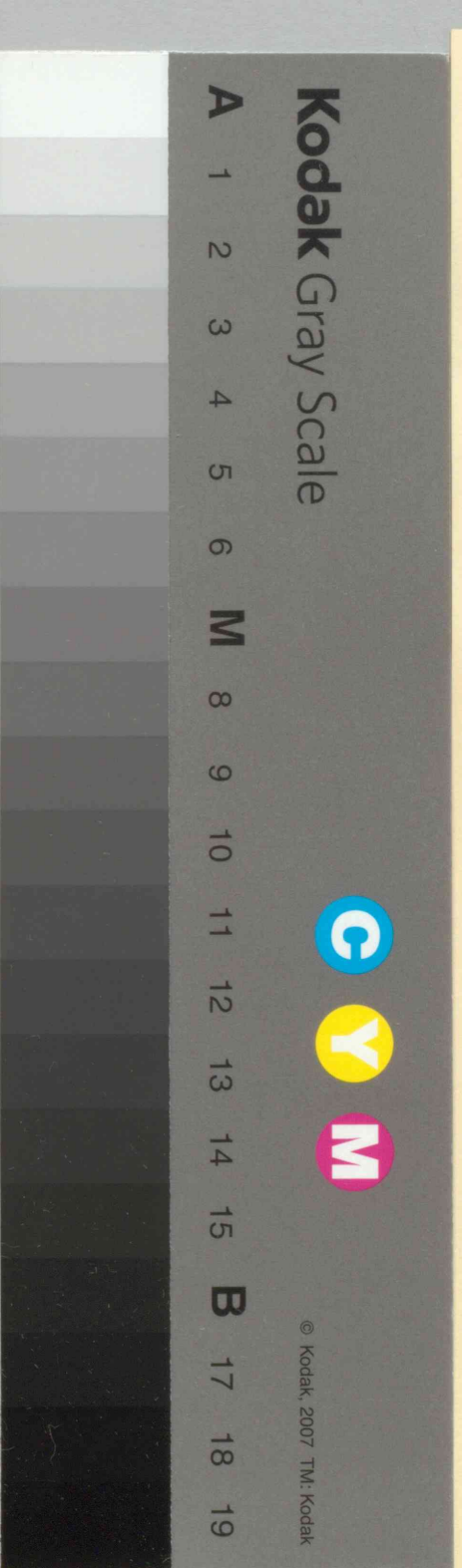
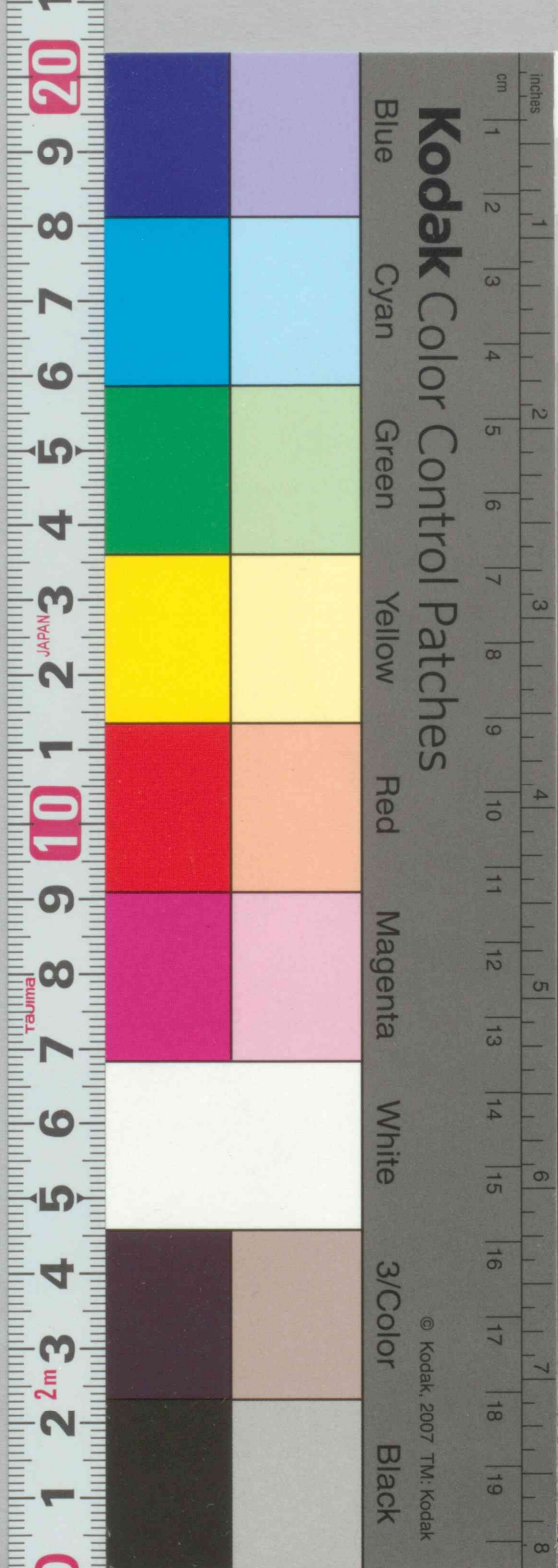
文部省検定済教科書
新教育実践研究所編

教科書文庫
6
810
34-1950
0130449922



一年中

T1A7
1L0
2



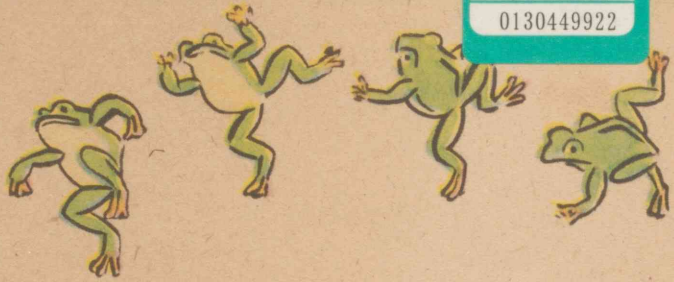
60337

教科書文庫

6
810
34-1950
01304 49922



教科書文庫
6
810
34-1950
0130449922



文昭和二十五年八月十一日
部省検定小学校国語科用

こくごのほん一

第一学年 中



広島大学図書
0130449922

中央図書館

広島大学図書
0130449922

もくろく

一 がっこう……………(4)

(一) へんじ……………(4)

(二) たまいれ……………(6)

(三) あてっこ……………(8)

(四) いけ……………(10)

(五) としょかん……………(12)

二 あいいうえお……………(14)

(一) あかいとり……………(14)

(二) いしかみはきみ……………(16)

(三) うさぎうさぎ……………(18)

(四) えんどうのはな……………(20)

(五) おおきなこえて……………(22)

三 おはなししましゅう……………(24)

(一) おはなししましゅう……………(24)

(二) みんなのはなし……………(26)

四 あそびましゅう……………(30)

(一) ぶらんこ……………(30)

(二) かぎぐるま……………(32)

(三) おにごっこ……………(34)

五 目とみみ……………(39)

(一) つばめ……………(39)

(二) なきこえ……………(42)

(三) ほし……………(44)

(四) ひよこ……………(46)

六 おしごと……………(48)

(一) はつかだいこん……………(48)

(二) おもり……………(52)

七 こがえるの

かけっこ……………(54)

八 ころちゃんど

おうとばい……………(58)

おけいこのてびき……………(65)

五十おん……………(68)

あたらしくてたおもなことば……………(69)

かんじ……………(72)



— がっこう

(一) へんじ

なを

よびますよ。

「はい」といって、

すぐ たって

ください。

きよしさん。

はい。



つるこさん。

はい。

あきらさん。

はい。

みつこさん。

はい。

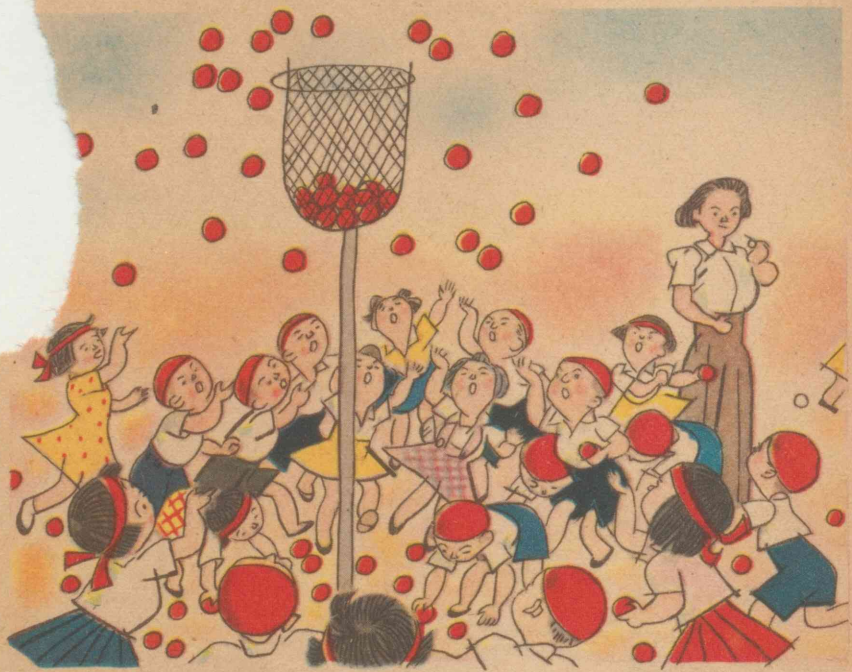
たかしさん。

はい。

はなこさん。

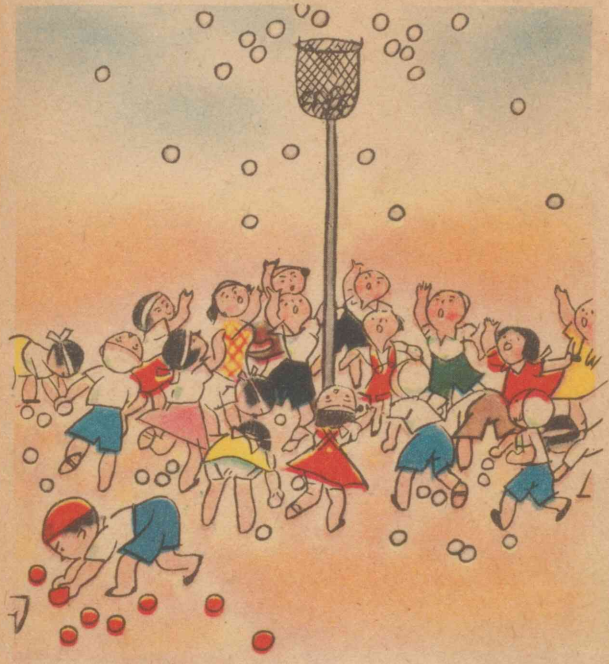
はい。





あか かくて、
 しろ かくて、
 そら いれる。

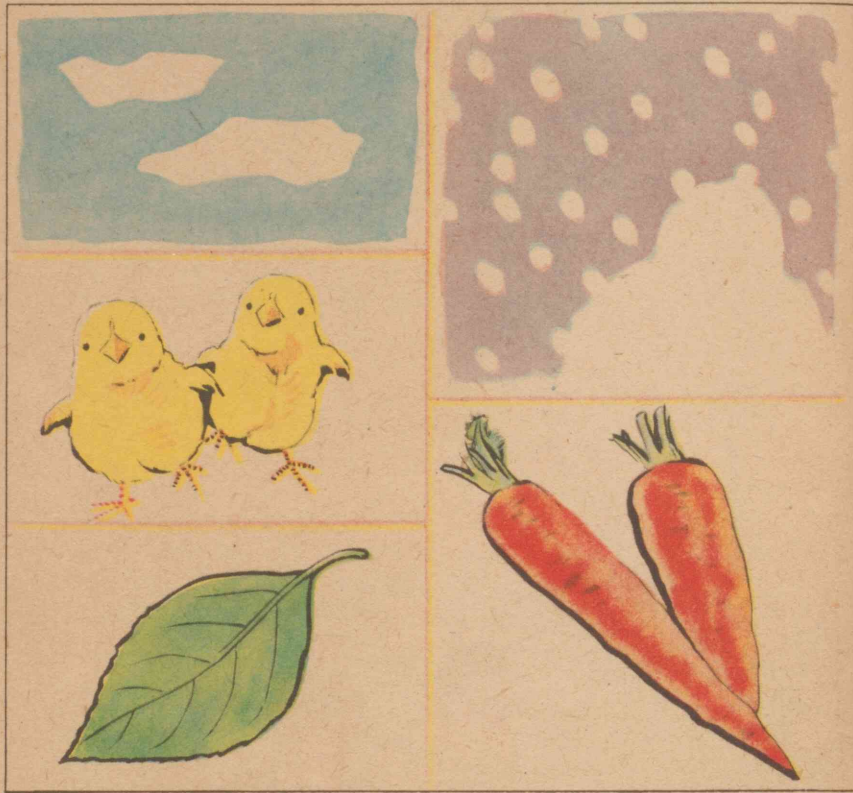
あかい たま、
 あかい たま、
 あかい たま、
 しろい たま、
 しろい たま、
 しろい たま。



たまいれ、
 たまいれ、
 ようい、どん。

あかい たま、
 しろい たま、
 しろい たま、
 あかい たま、
 あかい たま。

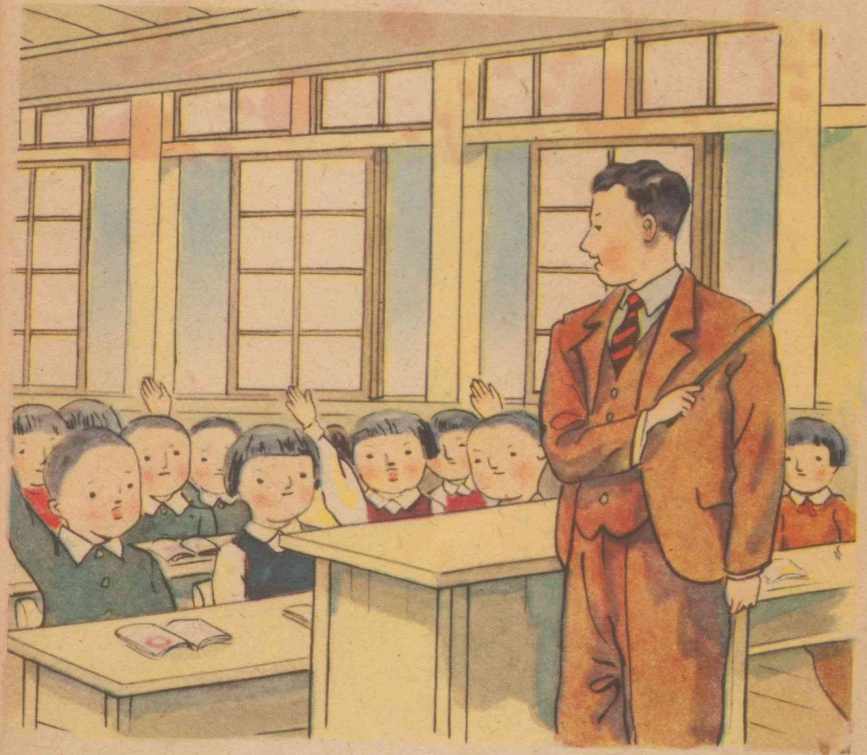
(二) たまいれ



ゆき。 しろ。
 にんじん。 あか。
 ひよこ。 きいろ。
 そら。 あお。
 はっぱ。 みどり。

(三) あてっこ

ものの
 なを いいます。
 はやく
 いろを
 あてて
 ください。



(四) いけ

いけには、

なにが

いますか。

こいが

います。

ふなが

います。

めだかが

います。



しまには、

なんの きが

ありますか。

まつが あります。

つばきが あります。

つつじが あります。



(五) としよかん

がっこうの
としよかんには、
おもしろい ほんが
たくさん あります。



えほんが あります。
ざっしがある。
おはなしの ほんも あります。

ぼく、
がっこうの
としよかんが
だいすき。



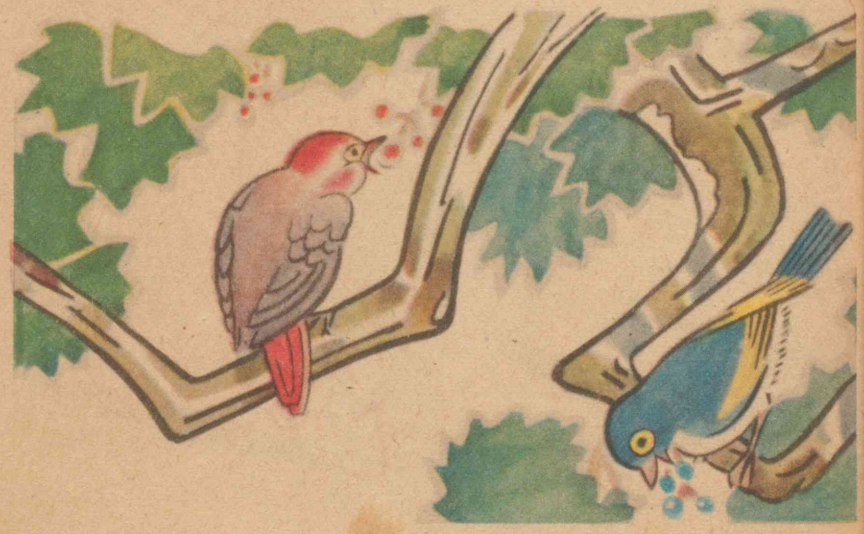
二 あ い う え お

(一) あかい とり ことり

あかい とり、ことり、
なぜ なぜ あかい。
あかい みを たべた。



しろい とり、ことり、
なぜ なぜ しろい。
しろい みを たべた。



あおい とり、ことり、
なぜ なぜ あおい。
あおい みを たべた。

(二) いし かみ はさみ

いし
かみ
はさみで、
じゃんけんぽん。

もう



いいかい。
まあだだよ。

もう

いいかい。
まあだだよ。

もう

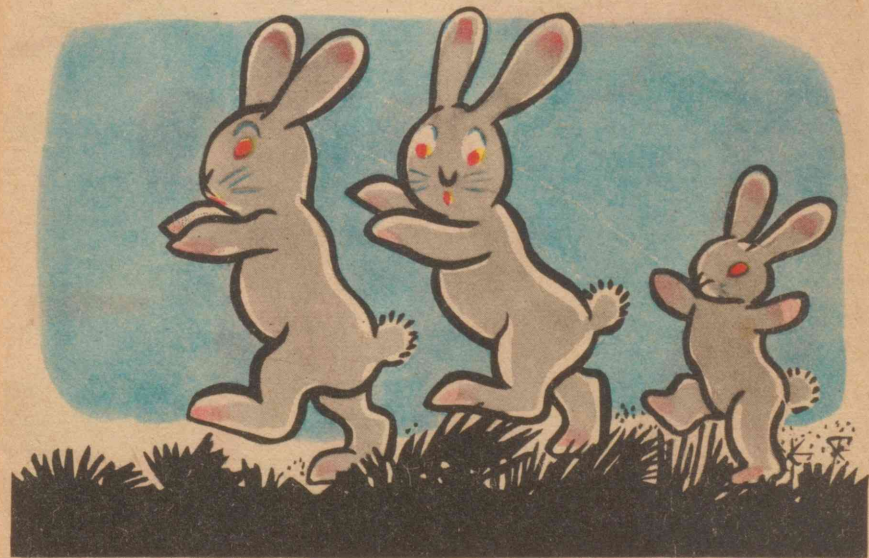
いいかい。
もう
いはいよ。





十五や
おつきさま、
みて
はねる。

(三) うさぎ、うさぎ、
うさぎ、
なに
みて
はねる。



(四) えんどうの はな

えんどうの
はなは、
えんどうの
みになる。



ひなたの
はたけ、
ちようちよか、
はなか。

えんどうの
はなは、
はやく
みにな
あれ。



(五) おおきな こえて

おおきな こえて、

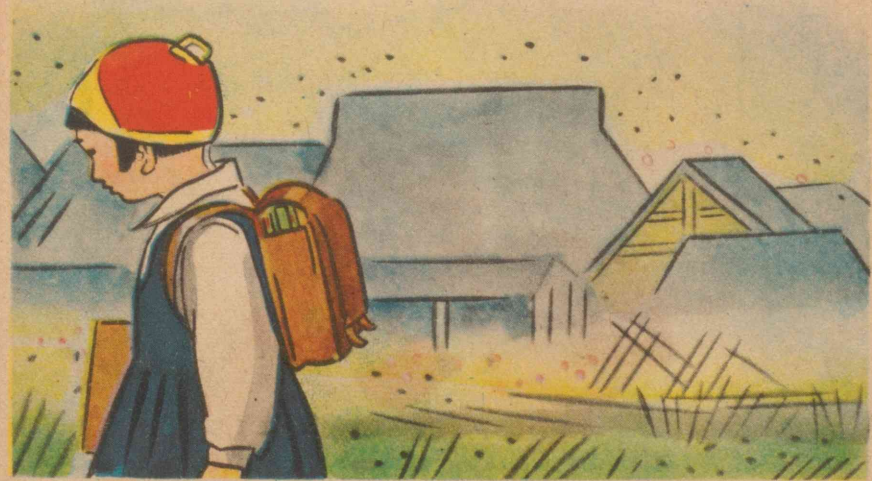
「あきらさあん。」

「まさこさあん。」

おともだちが、

さそいに きました。

おおきな こえて、



「はあい。」

「はあい。」

らんどせるを、

ぽいと しょいます。

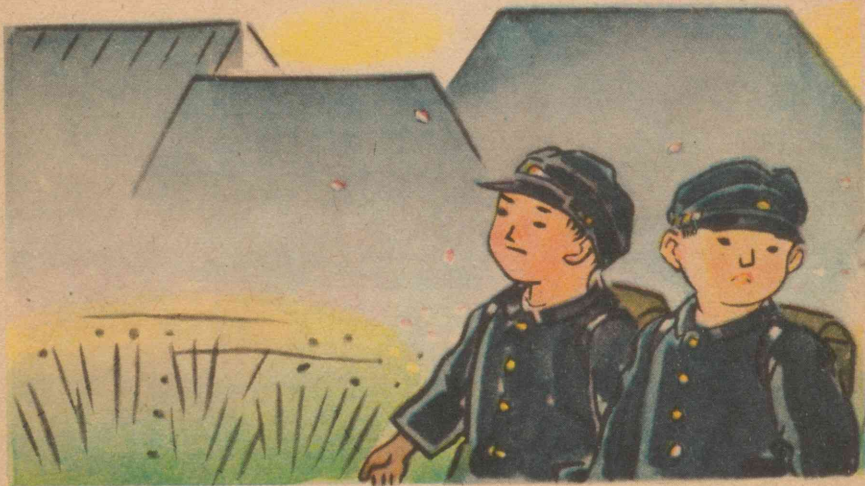
おおきな こえて、

「いって きます。」

「いって きます。」

はるかぜに のって、

がっこうへ いそぎます。



三 おはなし しましう

(一) おはなし しましう

おはなし しましう。

はなが さく。

はい、はい、しましう。

とりが なく。

ごむまり はずんで、

はなの かげ。

こねこも きいてる、

とりの こえ。

ままごと しました、

はなの した。

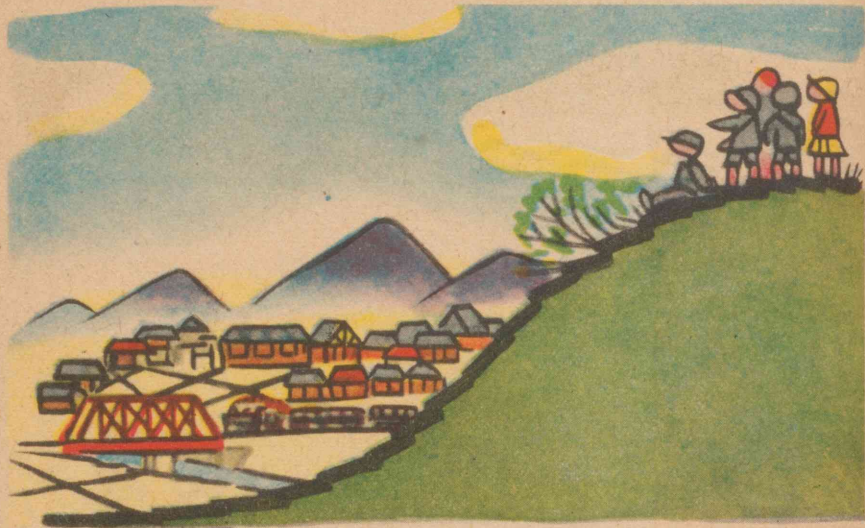
とりは いつでも、

なかが よい。

おはなし する こと、

あそびましう。





きのうは えんそくで、ま
 るやまへ のぼりました。
 まちが みえました。がっ
 こうが みえました。
 きしゃが、てつきょうを
 とりました。
 しげるさんの おむすびが、
 ころころと ころがりました。



おとうさんの てがみを だしに
 ぽちど いっしょに、
 かけて いきました。
 だしに
 いきました。

(二) みんなのはなし



しゃぼんだまを とばして あそびました。
 やねより たかく あがりました。



きょうの きゅう
 しょくは、くじらの
 にくでした。
 せんせいが、くじ
 らの おはなしを
 して くださいま
 した。



四 あそびましよう

(一) ぶらんこ

ぶらんこに のって、
ぶらん ぶらんと
ふりました。

かきねの

さくらまで
ふりました。

むこうの やまが、
したに なるほど
ふりました。

かぜと いっしょに、
ぶらん ぶらんと
ふりました。



(二) かざぐるま

ぼくの つくった
かざぐるま。

くる くる くる くる、
よく まわる。

一 二の 三で



かけだした。
きいろい ちようちよも、
おいこした。

まわる まわる
かざぐるま。
くる くる かぜ きって、
よく まわる。





(三) おにごっこ

あきらさんは、わあっと 行って、さくらの 木の
かげに かくれました。

おにの としちゃんは、むこうへ にげて いく 人
を、おっかけて います。

あきらさんは、さくらの 木に つかまって、それを
みて いました。

おには、きゆうに むきを かえて、どンドン こっ



ちへ かけて きます。あきらさんは、ちいさく なつて 木の かげに かくれました。

手を だして、

「おにさん こちら、おにさん こちら。」

と いったら、おには、かおを まっかに して、かけ て きました。

あきらさんは、ごうれいだいへ とんで いきました。

ふりむいて みると、おには、うんどうばの まんなか で、ほかの 人をおっかけて います。

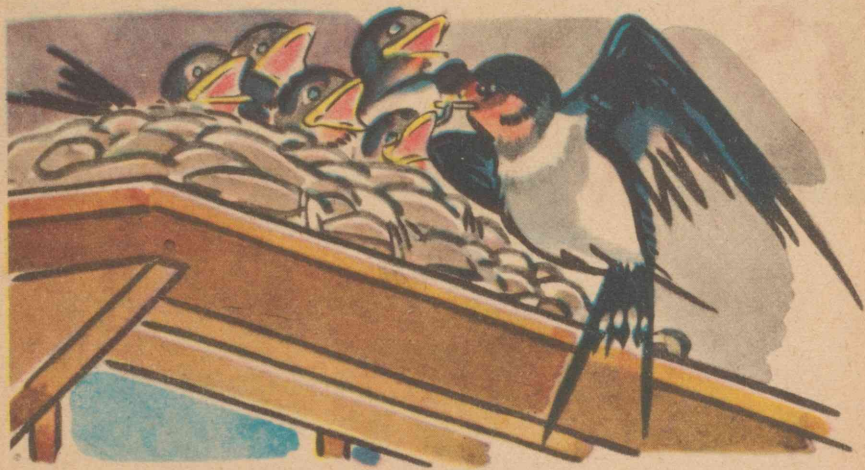
あきらさんは、むねを なでました。むねが どきどき

き して います。

「おにさん こちら。」

と いいながら、ごうれい だいの うえに あがつて みて いると、みいちゃん が、どうとう つかまりました。

その とき、みいちゃん は、ぺたっと しりもちを つきました。あきらさんは、



おかしく なって、わらいだしました。

お日さまは、きらきらと うんどうばを てらして
います。

せんせいは、さつきから、にこにこ しながら みて
いらっしゃいます。

おにの としちゃんは、かおを まっかに して、おっ
かけて います。

あきらさんは、たかい ごうれいだいの うえで、お
もしろいなあと おもいました。

五 目とみみ

(一) つばめ

つばめが、おうちの まどの
上に、すを つくりました。

こどもが、たくさん うまれ
ました。

おやつばめは、ちゅう ちゅう
ちゅうと ないて、よろこ



びました。

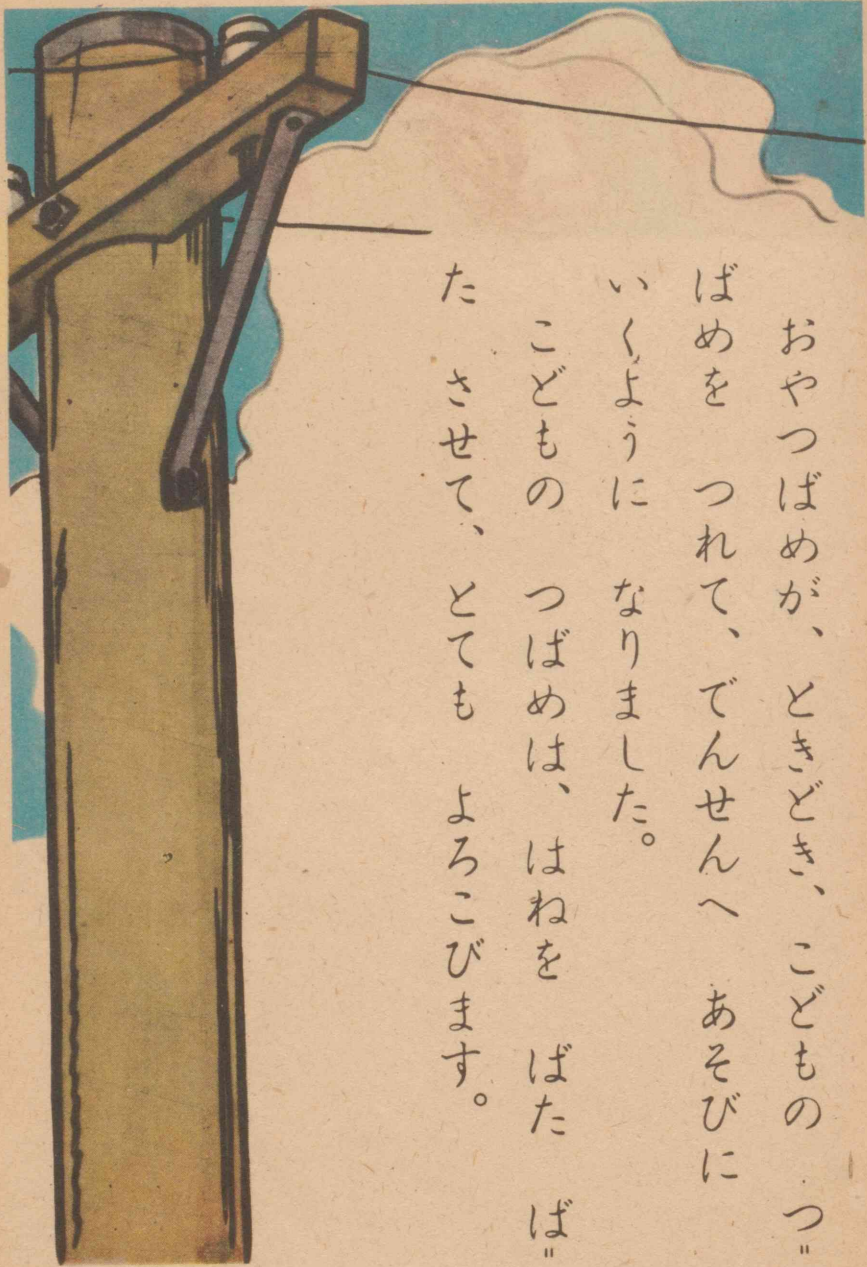
おやつばめは、まいにち、おもてへむしをとりにてていきます。

こどものつばめは、みんなでなかよくおるすばんをします。

おやつばめがかえると、こどものつ

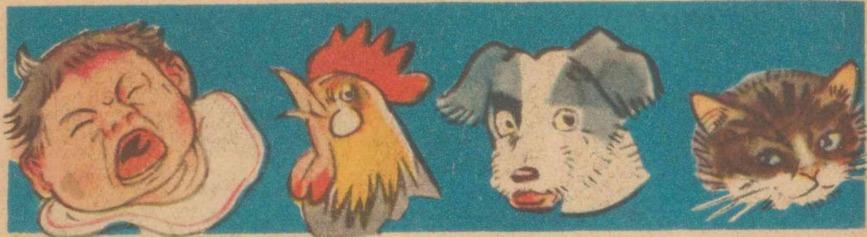
ばめは、ちゅうちゅうちゅう、ばた

ばたばたと、おおさわぎをしてよろこびます。



おやつばめが、ときどき、こどものつばめをつれて、でんせんへあそびにいくようになりしました。

こどものつばめは、はねをばたばたさせて、とてもよろこびます。



なきません。
 そうです。ぼうやは、いい こだから
 ぼうやは、なかない。
 ぼうやは、いい こだから
 なきません。

ぶたは、ぶうぶう。
 にわとりは、こけこっこう。
 あかちゃんはおぎやあ おぎやあと
 いて なきます。

では、ぼうやは、なんと いて なき
 ますか。



いぬは、なんと いて なきますか。
 いぬは、わんわんと いて なきます。
 ねこは、なんと いて なきますか。
 ねこは、にゃあ にゃあと いて な
 きます。

うしは、もうもう。
 うまは、ひんひん。

(二) なきごえ



と、おんなの こが いいました。
ほしは、おんなの この ところへ っ
て やりたいと おもいました。
たかい そらから とびおりて、おんな
の この ところまで おちました。
でも、ほしは、下まで おちて いけま
せんでした。
すうっと きえて しまいました。
「ああ、ながれぼし。」
と、おんなの こは いいました。



(三) ほし

きら きら きら きら、ほしが そら
で ひかって いました。
「きれいな きれいな おほしさま、ここ
へ おりて きて ちょうだい。」



(四) ひよこ

きいろい ひよこが、五わ かえりました。
おやどりの はねの 下から、ちいさい くびを だ
して、ぴよ ぴよと ないて います。
ひよこが、おやどりと いっしょに、にわへ でて
きました。

ほそくて、やわらかな あしです。

おやどりの あたまを つつついたり、とさかを ひつ

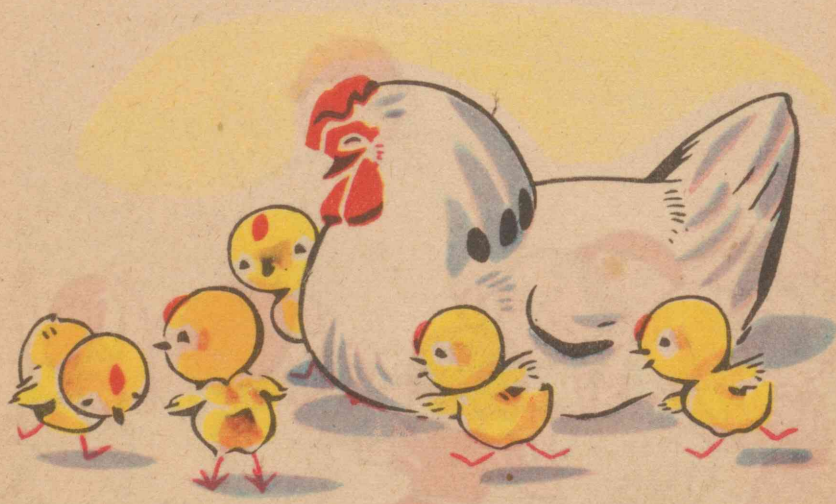
ぱったり して います。

むしが とんで きて、あ

たまの 上を とおると、の
びあがって みて います。

きのうは、からに なった
えばこの なかに はいって、
ひるねを して いた ひよ
こが いました。

ぴよ ぴよと ないて、ど
ても にぎやかです。



六 おしごと

(一) はつかだいこん

「きょうは、はつかだいこん
を、とります。」

と、せんせいが おっしゃい
ました。

みんな、手を たたいて



よろこびました。

せんせいは、はたけの ほうを むいて、

「はつかだいこんは、こんなに 大きく なりました。」
と、うれしそうに おっしゃいました。

みんな、はたけの ほうを みました。

どの はたけにも、はつかだいこんが、ぎょうぎ よ
く 三れつに ならんで います。

あおい はっぱの 下から、あかい かおを だして
いるのも あります。

「はつかだいこんの たねは、いつ まきましたか。」

みんな、かおを みあわせました。
「五がつの はじめでしたね。きょう
は 三十九日めです。その あいだ
に、みなさんは、どんな せわを
したでしょう。」

「はい、はい。」

みんな 手を あげました。

「こやしを やりました。」

「くさを とりました。」

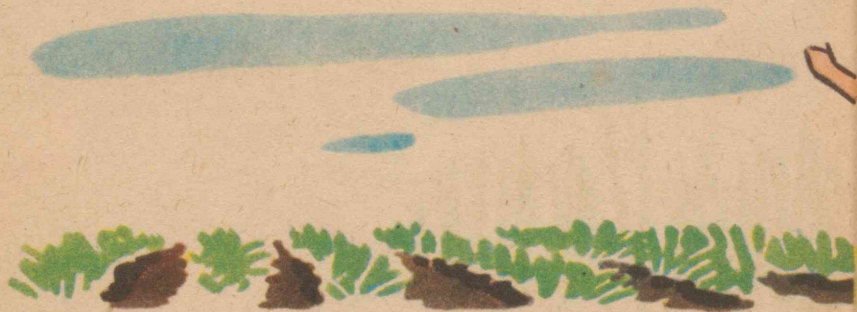
「まびきを しました。」

せんせいは にこにこ して、

「そうです。みなさんが、よく せわ
を したので、こんなに 大きく
なりました。きょうは、これを ぬ
いて、おうちへ もって かえるの
です。」

と、おっしゃいました。

みんなは、ぱちぱちと 手を たた
きました。



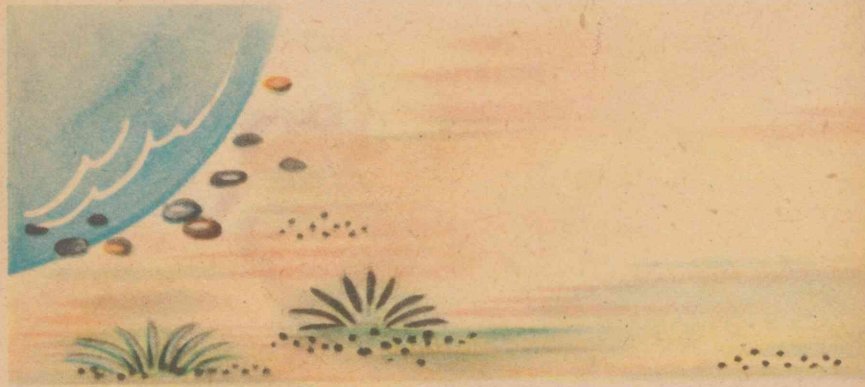
(二) おもり

とまとを たべてから、
ひろちゃんを おんぶ しました。
とまとばたけへ いったら、
あかい とまとが
みえました。
「あとで とろろね。」



と、ひろちゃんに
いいました。
ひろちゃんは、
いつの まにか、
ぼくのかたに
もたれて、
すう すうと
ねて いました。

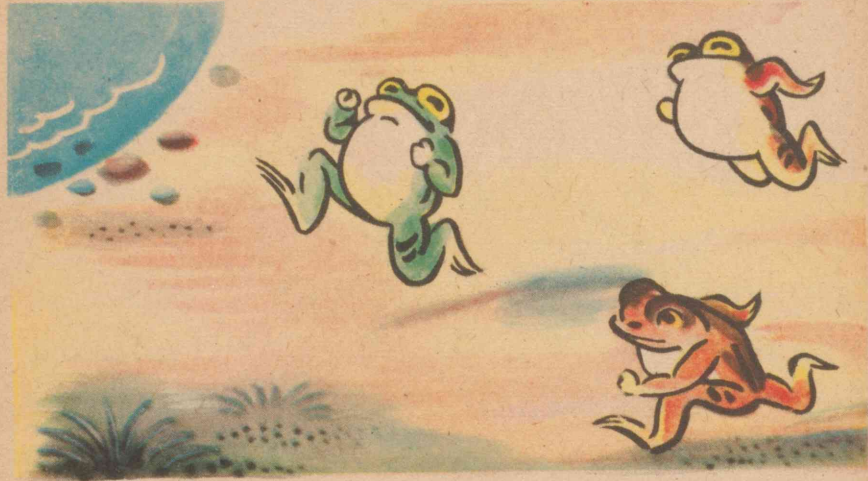




「よいいは よいか。」
と、とうさんがえるが いいました。
「一。」
と、ごうれい かけました。
すると、一ぴき かけだしました。
「だめ、だめ、はやい。」
と、とうさんがえるが いいました。
「一。」
と、ごうれい かけました。
「二。」



七 こがえるの かけっこ
こがえるが、三びき いました。
かけっこ しようど いいました。
とうさんがえるが ごうれいかけ
です。
「一 二 三で かけるのだ。」
と、とうさんがえるが いいました。
こがえるどもは ならびました。



と、ごうれい かけました。
 こがえるどもは、もじもじ
 です。
 「三。」
 と、ごうれい かけました。
 いっしょに みんな かけだ
 しました。ぴよんぴよん ぴよ
 んぴよん かけて いきます。
 川の きしまで いくのです。



と、ごうれい かけました。
 べつな 一ぴき かけだしま
 した。
 「だめ、だめ、はい。」
 と、とうさんがえるが いま
 した。
 こがえるどもは ほんきです。
 ならんで よういをして
 います。
 「一。」 「二い。」



いけませんよ。
 といって、とめるものはあ
 りませんでした。
 ころちゃん、なまえのように、
 おにわをころころとあるきま
 した。
 お日さまが、ころちゃんのか
 らだじゆうをくすぐりました。
 きもちがよくて、ころちゃんは、
 ころころ ぴんぴん はねました。

ハ ころちゃんと おうとばい
 いぬころの ころちゃ
 んは、みかんばこの お
 うちから、ちよこちよこ
 と、そとへ できました。
 おかあさんいぬが、お
 るすです。だあれも、
 「とおくへ いったは、





かおを ひっこめようと し
ました。はっぱが たくさんで、
くびをしめました。かおが
うごかせません。しろい ほこ
りが、かおに いっぱい かか
りました。
ころちゃんは、きんきん
きんきんと、なきごえを たて
ました。はっぱの なかで、く
びを くるくる くるくと

ころちゃんは、はっぱの たくさん しげった かき
ねを みつけました。
「おもしろそうだから のぞくんだ。」
ころちゃんは、はっぱの なかへ、くびを いれま
した。

その とき、ぶうぶう どっどっどっどと、じひび
きが しました。ぴかぴか ひかる ものが、くるくる
びゅうんと 目の まえを とおりすぎました。
ころちゃんは、ぶるぶるつと ふるえました。きやあ
んと なきごえを たてました。

まわして いました。そこへ おかあさんいぬが、とんで きました。

「まあ、まあ、ころちゃんたら、ひとりで こんなところへ きたの。かきねに くびが はまったのかわ。」

「あ の ぶうぶうは、おうとばいと いうのよ。」

「きやん きやん、きん きん。」

「いまに、ころちゃんが 大きく なったら、あれと

かけっこ するのよ。」

「きやん きやん、きん きん。」

「どう したの。どう し」

たの。」

「きやん きやん、きん

きん。」

「ほこりが お目目には

いったのね。」

「きやん きやん、きん

きん。」

ころちゃんは、おかあさん

んに、お目目を なめて



もらいました。

「ぼうやは、おうとばいと いうのが こわいから、な
いて いるんじゃないよ。ほこりが お目目には
いったから、ね、おかあさん。きやん きやん、きん
きん。」

そう 行って、ころちゃんはまだ すこうし なき
じゃくりをして いました。



おけいこの てびき

この ほんは、おもしろい ほんです。お
もしろい ことばの うみです。この うみ
に ふねを うかべて、みんなて、あそんで
ください。

えを みて、はなしあいましょう。おとも
たちの おはなし するのを ききましよう。
はつきりと した こえて、なんべんも
よみましよう。

うたえる ものは うたい、おはなしあそ
びに なる ものは、あそびましよう。
えも かきましよう。かあどに、えと も
じを かいて、きれいな「もじばん」をつ
くりましよう。えの はいった おはなしを
かきましよう。

この ほんを もとに して、きいたり、
はなしたり、よんだり、かいたり して、よ
くできる こどもに なりましよう。

一 がっこう

(一) へんじ

おともだちど、がっこうごっこを して
いる どころです。かわるがわる せんせい
になって、おともだちの なまえを よぶ
ど、みんな けんきよく たって、

「はい。」「はい。」

ど、へんじを します。

おともだちど、このような あそびを し
て みましよう。

いつでも、なまえを よべたら、「はい。」

ど はつきり へんじを しましょう。

(二) たまいれ

あかと しろに わかれて、おもしろい
たまいれごっこを して います。

げんきよく よんで ください。げんきよ

く おうえん しましょう。

うんどうばで あそんだ ことを おはな

し しましょう。

(三) あてっこ

いろを あてっこ する あそびです。こ
の ほかに、おもしろい あてっこを かん
がえて、おともたちと して みましょう。

(四) いけ

がっこうの にわに どんな ものが あ
りますか。さかなや、きの なまえの ほか、
はな、どり、けものなど、いろいろな もの

の なまえを あつめて みましょう。

(五) としょかん

としょかんには、なにが ありますか。み
なさんは、どんな ほんを よんで います
か。よんだ ほんの ことを おはなし し
て みましょう。

二 あ い う え お (おもしろい おど
の もと)

(1) おおきな こえて よみましょう。

(2) えの おはなしを しましょう。

(3) (一) あかい どり ことり (三)
うさぎ うさぎを うたいましょう。

(4) (二) いし かみ はさみは、あそび
ましょう。

(5) (四) えんどうの はな、 (五) おお

きな こえては、そらで いろいろまで

よみましょう。

(6) あ い う え おを、おおきな こ

えて はつきりと いて みましょう。

それから、えんびつて、きれいに かき
ましょう。

(7) あ い う え おの、いつつのお

とは、にほんの ことばの、もとに な
ります。

三 おはなし しましょう。

(一) おはなし しましょう。

(1) なんべんも よみましょう。

(2) ひどすじずつ、ちがった ひどで よ
みまわしましょう。

(二) みんなの はなし

(1) どんな はなしを したが、えを み
て いて いらんなさい。

(2) えど おはなしを うつしましょう。

(3) じぶんで、えど おはなしを、つくり
ましょう。

四 あそびましょう。

(三) おにごっこ

(1) だれが、はじめに おにに なりまし

たか。

(2) あそんだ はなしを して ください。

五 目と しみ

(1) 目で、なにを くわしく みましたか。

(2) みて、なにを ききましたか。

六 おしごと

おしごとの はなしを して ください。

ハ ころちゃんど おうとばい

ころちゃんが、おしまい いった こ
とばを そらで いて みましょう。

あいた 50
 あおい 15
 あかい 6
 あがる 28
 あし 46
 あそび(ましよう) 25
 あたま 46
 あてっこ 8
 あります 11
 いき(ました) 26
 いけ 10
 いそぎ(ます) 23
 いっぱい 61



61 23 10 26 11 8 46 25 46 28 6 15 50

いろ 8
 うえ 37
 うまれ(ました) 39
 おうち 39
 おかしく 38
 おしごと 48
 おちて 45
 おっかけ(て) 34
 おつきさま 19
 おともだち 22
 おはなし 13
 お日さま 38
 おほしさま 44

44 38 13 22 19 34 45 48 38 39 39 37 8

おもいました 38
 おもしろい 12
 おり(て) 44
 おんな 45
 かえり(ました) 46
 かお 36
 かくれ(ました) 34
 かけ(て) 26
 かけ 24
 かぜ 31
 かた 53
 かて 7
 かみ 16

16 7 53 31 24 26 34 36 46 45 44 12 38

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
る	る	り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い
え	れ	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
を	ろ	れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え
		よ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お



ば	ば	だ	ぎ	が
び	び	ぢ	じ	ぎ
ぶ	ぶ	づ	ず	ぐ
べ	べ	で	ぜ	げ
ぼ	ぼ	ど	ぞ	ご

ぴ	び	ぢ	じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き
ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ	ゃ
ぴ	び	ぢ	じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き
ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ	ゅ
ぴ	び	ぢ	じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き
ょ	ょ	ょ	ょ	ょ	ょ	ょ	ょ	ょ	ょ	ょ	ょ

で(て) 40
とおりました 27
とき 37
ときどき 41
ところ 45
としょかん 12
とても 41
とばし(て) 29
とめる 59
とん(て) 36
ない 64
なか 47
なか(がよい) 25
なき(ます) 42
なで(ました) 36
なまえ 59

59 36 42 25 47 64 36 59 29 41 12 45 41 37 27 40

なめ(て) 63
ならん(て) 49
なる 20
にぎやか(です) 47
にく 28
に(げ(て) 34
にわ 46
にんじん 9
ぬい(て) 51
ね(て) 53
のぞく 60
のつ(て) 23
のぼり(ました) 27
はいっ(て) 47
はさみ 16
はじめ 50

50 16 47 27 23 60 53 51 9 46 34 28 47 20 49 63

はたけ 21
はっば 9
はな 20
はね 41
はねる 18
ひかっ(て) 44
ひとり 62
ひよこ 9
ふな 10
ふり(ました) 30
ふるえ(ました) 60
べつな 56
へんじ 4
ぼく 13
ほそい 27
ほん 12

12 27 13 4 56 60 30 10 9 62 44 18 41 20 9 21

川 57
き(木) 11
きいろ 9
きい(てる) 25
きえ(て) 45
きつ(て) 33
きのう 27
きょう 28
きれいな 44
くさ 50
くさい 4
くび 46
こい 10
こども 39
こどり 14
ころがり(ました) 27

27 14 39 10 46 4 50 44 28 27 33 45 25 9 11 57

こわい 64
さつき 38
ざっし 13
した 25
しま 11
しまい(ました) 45
しめ(ました) 61
しよい(ます) 23
しろい 6
すぐ 4
する 25
せわ 50
そと 58
だいすき 13
たかく 29
たくさん 12

12 29 13 58 50 25 4 6 23 61 45 11 25 13 38 64

たたい(て) 46
たつ(て) 4
たて(ました) 61
たね 49
た(た) 14
たまいれ 6
だめ 55
ちいさく 36
つかまつ(て) 34
つき(ました) 37
つくつ(た) 32
つつじ 11
つばき 11
つれ(て) 41
手 36
てがみ 26

26 36 41 11 11 32 37 34 36 55 6 14 49 61 4 46

まいにち
まつ
まっかにして
まど
まわる
みえました
みつけました

60 27 32 39 36 11 40

みて
みどり
みみ
むいて
むね
目
めだか

10 39 36 49 39 9 18

もって
やね
やわらかな
ゆき
ようい
よびます

4 6 9 46 29 51

大人	二	(14)
九手	一	(14)
七日	三	(18)
川目	十	(19)
八上	五	(19)
下	四	(20)
	六	(34)
		(48)

編修委員

日本女子大学付属 豊明小学校主事 東京芸大竹早 附属小学校教諭	西原慶一	同	山下正雄	成蹊中学校教諭	飛田多喜雄	日本女子大学付属 豊明小学校教諭	小山立夫	作家	齋田喬	新井五郎	上田三郎	小林和郎	富永秀夫	林義雄	藤沢龍雄
			泉節二							川上四郎		野水昌子			
												松井末雄			

さし絵・表紙

Approved by Ministry of Education (Date Sep.28, 1950)

12 二葉	小国152
発行所 東京都北区稻付町一丁目二〇八番地 二葉株式会社	印刷者 東京都北区稻付町一丁目二〇八番地 二葉株式会社 代表者 大野治輔
著作者 東京都北区稻付町一丁目二〇八番地 二葉株式会社 代表者 大野治輔	発行者 東京都北区稻付町一丁目二〇八番地 二葉株式会社 代表者 大野治輔
昭和二十六年五月十日印刷 昭和二十六年五月十五日発行 (昭和二十五年八月十二日文部省検定済)	定価 四十円

こくごのほん一(小学校第一学年中期用)



なまえ

広島大学図書

広島大学図書

0130449922



二葉株式会社